

学校法人神戸滋慶学園 神戸医療福祉専門学校三田校  
2022年度 第1回 学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：今在家 信司

- 1、開催日時：2022年6月25日（土）13：00～15：00
- 2、開催方法：ZOOM開催
- 3、参加者：学校関係者評価委員

（氏 名）

田中加代子	近隣関係者（特定非営利活動法人言語障害者の社会参加を支援する会しゃべろー よ地域活動支援センター トークゆうゆう 所長）
川崎万紀代	高等学校関係者（学校法人百合学院中学校・高等学校 校長）
川端雅生	業界関係者（一般社団法人日本義肢協会 近畿支部 研修委員）
中村元樹	卒業生代表（医療法人社団尚仁会 平島病院 理学療法士）
柿本香代子	保護者代表

学校側参加者

澤村 誠志	神戸医療福祉専門学校三田校 校長
今在家 信司	神戸医療福祉専門学校三田校 事務局長
岡田 大地	神戸医療福祉専門学校三田校 理学療法士科 副学科長
山下 真吾	神戸医療福祉専門学校三田校 作業療法士科 副学科長
今岡 康人	神戸医療福祉専門学校三田校 言語聴覚士科 学科長
榎木 千代美	神戸医療福祉専門学校三田校 救急救命士科 学科長
佐々木 伸	神戸医療福祉専門学校三田校 義肢装具士科4年制 学科長
山藤 智基	神戸医療福祉専門学校三田校 義肢装具士科 学科代表
辻野 道子	神戸医療福祉専門学校三田校 整形靴科 学科長

#### 4、会議の概要

- (1) 校長挨拶
- (2) 令和3年度自己点検評価結果報告2022年度重点目標の説明
- (3) 質疑応答および審議

#### 5、2021年度自己点検・自己評価結果報告

2021年度本校が実施した自己点検・自己評価の内容を下記10項目について説明した後、各委員から質疑応答、そして評価をして頂いた。

1. 教育理念・目的・育人人材像
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援

6. 教育環境
7. 学生募集と受け入れ
8. 財務
9. 法令遵守
10. 社会貢献・地域貢献

※自己評価・学校関係者評価の結果参照

## 澤村校長挨拶

本日は梅雨時の蒸し暑い中ご参加いただき心からお礼申し上げます。

三田校は、職員のチームワークでがんばっていると感じております。

本校の教育理念は、実学教育（社会で即戦力となる人材）、人間教育（人格の形成）、国際教育（国際的に活躍できる人材です。その中でも1番大切にしているのは人間教育です。「今日も笑顔で挨拶を」をモットーとしております。また4つの信頼（学生・保護者からの信頼・業界からの信頼・高等学校からの信頼・地域からの信頼）において最近のトピックスとしては、コウノトリの義足づくりです。兵庫県立コウノトリの郷公園と連携協定を締結しました。コウノトリの高齢化が進み、足の切断、麻痺などが出てきています。義肢装具士の川上教員を中心に取り組み、先般、日本財団から特別賞をいただきました。

我が国の医療は海外と違い、病床数は多いですが、医師や看護師が少ない状況です。そのためコロナの対応が遅れたところでもあります。「人生の最期は在宅で」という地域包括ケアシステムのためにも支援体制が必要です。優秀な専門職人材の輩出にこれからもご支援よろしく申し上げます。

## 【質疑応答】

川端委員) 今年度、義肢装具士科は臨床実習に参加できる予定ですか？

今在家) 今年度は全学科とも臨床実習に参加できる予定です。授業でお願いしている外部モデルさんもコロナ禍で制限をしていましたが、今年度は学校に来ていただいております。

川端委員) 臨床実習に行くことでスキルが上がり、モチベーションも上がる。実習に行けないことがDOにつながっているのではと思うので、今後DOの改善にもつながると思います。

今在家) コロナ禍での2次元的な実習体験が多い中、卒業学年にいきなり学外実習に行くとなるとカルチャーショックを受けることもあるので、3次元的(見て触って感じる)実習による体験をコロナ前同様2年、3年と徐々につけていくことが重要だと思っています。

川崎委員) 救急救命士科のカウンセリング件数が0とずいぶん他学科と違いますね。西日本学生救急救命技術選手権で優勝する等入学前からモチベーションが高いのでしょうか。

今在家) 人の命を救う、1分1秒の勝負という職種のため団体行動、命令系統の統一と入学前から徹底しています。他学科はまずはリスク管理、論理的思考「行動する前によく考える」というところで、少し違いはあります。ただ、人の命を救うということはベースにあるのでメンタルトレーニング、職種についての理解、マインドについてはさらに教育を重ねていきたいと考えています。

川崎委員) コウノトリの取り組みのニュースは私も2回見ました。ペットの高齢化を考えると交通事故だけがをした等そういう方面にも義肢装具士の技術を生かせるのではないのでしょうか。

今在家) ペットブームを考えるとニーズは上がっていると思います。動物の義肢装具の利用については人間が手を加えると問題があるのでは、動物にとって良いことなのか、手を加えると短命になるのではとコウノトリの取り組みについても多くの議論が交わされました。獣医師からは「義足がなかったらもっと早く亡くなっていた」と聞かされ、命がある限り支援できるという考えは人間も同じであることが

わかりました。実際にニュースを見てこういうものを作ってほしいという依頼はありますが、あくまで獣医師と連携を取り、医療として取り組んでいきたいと考えています。

田中委員) 私は失語症の方と仕事をしていますが、言語聴覚士の数が絶対数足りない、地域に活躍の場がまだまだ広がっていないと感じています。そのためにも多くの人に言語聴覚士になって欲しいと思っています。入学した学生さんが、学力や仕事の理解不足で途中でやめるのはとても残念です。是非、入学時から意識づけをして、最後まで頑張ってもらいたいと思います。社会そのものの認識も低いと思います。介護保険においても言語障害の認定の項目はありません。まだまだ遅れていると思っていますので、教育面からも頑張ってもらいたいと思います。

今在家) 先日、三田市の福祉課から言語分野の講演依頼がありました。やっと社会的にも認知され動き出したかなという印象です。三田市とも積極的に連携して動いていきたいと思っています。また地域の保育所からも言語障害、発達障害の支援をしてもらえないかという要望もあるので、足元から職域を広げていければと思います。超高齢社会の中で、失語症だけでなく摂食嚥下は食べることが生きることの根源なので歯科医師・栄養士とも連携し、地域で動ける言語聴覚士を育成していきたいと考えています。

中村委員) 作業療法士と言語聴覚士の出願者が少ないとのことですが、オープンキャンパスの参加者で理学療法士希望者に作業療法士や言語聴覚士の話をしてリハ全体に興味を持ってもらってはどうか。

今在家) 今年度その取り組みをしています。今までは、理学療法士だけの説明でしたが、リハビリ全体のことを伝える必要があると思います。学科ではなく学校をイメージして取り組んでいきます。

柿本委員) 娘が3年次に1か月の臨床実習に行き、4年生になったので、まもなく臨床実習に行きますが、実習に行くことで少しずつ成長している、自信がついてきていることを見て感じます。コロナ禍で受け入れが難しい病院もあると思いますが、先生たちが実習先を一生懸命探して下さることに感謝しています。就職に対しても実習が成長につながっていると思うので、本当に感謝しています。

今在家) 学校は、学生が主体ですので、学生のために精一杯取り組んでいきたいと考えています。実習で不安や悩み等ありましたら、保護者からも学校にご相談いただければと思います。

澤村校長) 本日は、貴重なご意見を有難うございました。今後共どうぞ宜しくお願いします。

次回開催 2023年2月予定